

学習塾・予備校・私立学校・日本語学校でも、ビブリオバトルで、読解力の育成を！

ー公益財団法人文字・活字文化推進機構で考えるー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「ビブリオバトル」とは何ですか。

A：（１）「おすすめする本を紹介し、どの本が一番読みたくなったかを決めるゲーム」。

（２）全国各地の小学校、中学校、高校、大学、公共図書館、書店などで大流行中です。例えば、東京都墨田区などでは、すべての公立小・中学校で、「ビブリオバトル」を行い、区のチャンピオン大会まで行っているようです。

（３）各学校や大学、公共図書館、公益財団法人文字・活字文化推進機構、読売新聞社、書店組合、出版社はじめ、多くの団体が推進、国民的な「読書推進活動」になりつつあります。

（４）これからは、われわれ、学習塾・予備校・私立学校・日本語学校でも、どんどん取り入れ、「読書推進活動」、特に、「読解力」の育成に役立てることを、ご提案します。

Q：例えばどのように行えばよいのですか。

A：（１）公益財団法人文字・活字文化推進機構のHPや、近くの公共図書館のHPで、「ビブリオバトル」を検索すれば、すぐわかります。

（２）たとえば、「ビブリオバトルの出場者」を何人か募集（５～６名）。

（３）次に、出場者は、「みんなにおすすめしたい本、紹介したい本」を１冊選び、５分間、「何も見ないで紹介する」。その直後、２分間、質疑応答。

○紹介の時間は、「小学生は３分」「中学生以上は５分間」。

（４）「出場者のお話」が終わったら、出場者全員への質疑応答を、数分間行う。

（５）最後に、「お話を聞いて、どの本を一番読みたくなったか、一人１票で投票」。「発表者は、自分で発表した以外の本に投票」。その日の「チャンピオン」を決める。

（６）主催者に予算があるようでしたら、「チャンピオン」に「５００円」の「図書カード」などをプレゼントすれば、励みになると考えます。

Q：「ビブリオバトル」は何に役立つと考えますか。

A：（１）「どんな本を読んだらよいか」、「本を選ぶ」のに役立ちます。

（２）「ビブリオバトル」でおすすめいただいた本で、自分も読んでみたいなという本があったら、書店や図書館に行き探し出し、実際に読んでみることをおすすめします。

（３）「本に出合う選択肢」を「多様にする」「広げる」のに「ビブリオバトル」は役立ちます。

（４）図書館は、本を購入し、図書館の本を充実させるのに役立ちます。

（５）本屋さんは、本を仕入れ、書店を充実させるのに役立ちます。

（６）先生方や保護者の皆様は、子どもたちにお勧めする本を知るのに役立ちます。

- (7)「ビブリオバトルに参加する皆様」は、「自分で推薦したい本」を「深く読み」、「自分のことばで言う(表現・説明する)力」を身につけるのに役立ちます。
- (8)読書により得られるものは「思慮深さ」「省察(自分を振り返る)力」と考えます。
- (9)本好き、読書好きになります。
- (10)みんなの前で、自分のことばで発表した本は、しっかり保存、繰り返し読み直せば、自分の人格の基礎の一部になります。
- (11)みんなの前で、発表する力が身につきます。ビブリオバトルは、みんなの前で、自分の考えを発表する、素晴らしい訓練となります。
- (12)気に入った文章を紹介するには、「朗読」の仕方を学ぶと効果的です。
- 「ビブリオバトル」と「朗読」をセットで行う「読書推進活動」にご挑戦ください。
- 「公益財団法人文字・活字文化推進機構」では「朗読者の養成と派遣」を行い、好評です。

Q：学習塾・予備校・私立学校・日本語学校の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)現代の教育に最も必要なのは「読解力」です。

(2)この「読解力」を身に着ける最も確実な方法とは、

- ①「辞書の活用」
- ②「新聞を毎日読むこと」
- ③「読書に励むこと」
- ④「図書館を活用すること」。

この4つです。

- (3)1冊でも多く、じっくり本を読み、読解力を身に着けることは、「学校成績大幅アップ」「小学校・中学校・高校入試、大学・大学院入試まで、すべての受験勉強」の「基本のキ」です。読解力なくして、学校教科書・参考書の正確な理解はありません。長文化する入試問題文を、試験時間内に正確に読み解き、正解を導くことはできません。
- (4)学習塾・予備校・私立学校こそ、「ビブリオバトル」を活用し、「読解力」養成。独自のカリキュラムに組み入れることをおすすめいたします。
- (5)日本語能力検定試験2級(N2)は、「日本語を読み解く力」「日本語の読解力」が求められます。「N2合格」にふさわしい「おすすめ本」を紹介する「日本語学校としてのビブリオバトル」にもご挑戦を。
- (6)日本語を学ぶ日本語学校の留学生や、在留外国の皆様が一番お薦めは、公共図書館にたくさん整備されている「小学校の学年別図書コーナー」や「ヤングアダルト・YA 図書コーナー」の本です。「ビブリオバトル」でも、是非、ご紹介いただきたく存じます。

Q：今月も、僭越ではありますが、何冊か本を紹介させていただきます。

A：(1)第一冊目は、阿川尚之著「アメリカン・ロイヤルの誕生。ジョージタウン・ロー・スクール留学記」中公新書、中央公論新社、1996年10月25日刊です。アメリカ名門ロースクール出身のローヤーたちは、どのくらい学んでいるのかがよくわかります。自分が、ワシントン DC のジョージタウン大学ロースクールに留学しているような気分になりました。医学部医学科や難関大学への受験指導をする先生方は、是非、ご一読下さい。将来、留学し、このような

教育にも耐えられる人材の育成をお願いいたします。英語も含め「読解力」を鍛え抜かないと話にならないからです。英英辞典、英字新聞、英語雑誌、英語の読書は必須。

○本書(181～187ページ)で、「弁護士の守秘義務」を学ぶと、「弁護士など専門職に仕事を依頼する時の基本的態度」、つまり、「仕事を依頼する時には、自分に不利なことこそ、包み隠さずお話しすることの大切さ」がよくわかります。

(2)第二冊目は、坂本達哉著『『共感』の思想史、ヒューム、スミスから現代へ』岩波新書、岩波書店、2026年4月17日刊です。イギリスの思想家、トマス・ホッブス、デイヴィッド・ヒューム、アダム・スミスの「共感」の考えを理解することなしに、「資本主義」の理解はありません。本来の資本主義の根底にあるのは、「相手を思いやる」「共感」の思想です。

(3)第三冊目は、池田幸弘著「自由・秩序・進歩、ハイエク『自由の条件』を読む」慶應義塾大学出版会、2026年2月20日刊です。現代の国際秩序の大混乱の原因は、政治や経済のリーダーの「自由とは何か」の理解不足、勉強不足です。現在、世界の三大大国が「独裁国家」の様相を呈しています。今こそ、「ハイエク」の学び直しの時期と考えます。

(4)第四冊目は、サマセットモーム著『月と六ペンス』岩波文庫、岩波書店、1970年4月16日刊です。ポール・ゴーギャンの生涯をテーマにした、モームの代表作。「月」とは、「手の届かないもの」、「六ペンス」とは「世俗的な取るに足らぬもの」を意味すると読後知り、「ああそうなのか」と納得。しみじみした作品です。是非、ご一読を。

(5)第五冊目は、ペルー出身の大ベストセラー作家、イザベル・アジェンデ著「精霊たちの家」国書刊行会、1989年12月10日です。同著「エバ・ルーナ」白水社、2022年 9 月28日刊。同著「エバ・ルーナのお話」白水社、2022年10月26日刊。同著・木村裕美訳「天使の運命(上)(下)」PHP 研究所。2004年3月1日刊。モームの「月と六ペンス」の余韻に浸りながら読んだのが、アジェンデ作・木村訳「天使の運命」。余りにも面白かったので、出世作「精霊たちの家」とその続きの「エバ・ルーナ」「お話」を続けて読みました。アジェンデの作品はすべてつながっています。モームも、アジェンデも、一度読み始めたら、読み終わるまで本が手から離れなくなります。名作です。世界は広く、本格的な読書を目指す先生方には最適な本です。

(2026年10月5日記)